

VI-1. 離床の実施 [機器のチェック]

機器

- ① 人工呼吸器
- ② 非侵襲的陽圧換気 (NPPV)
- ③ 酸素療法
- ④ 心電図
- ⑤ ホルター心電図
- ⑥ 胸腔ドレーン
- ⑦ 心嚢・縦隔ドレーン
- ⑧ 経皮的胆道ドレーン
- ⑨ 経鼻胃チューブ
- ⑩ イレウス管
- ⑪ 膀胱留置カテーテル
- ⑫ 末梢静脈カテーテル
- ⑬ 中心静脈カテーテル
- ⑭ S-Gカテーテル
- ⑮ 胃瘻
- ⑯ その他カテーテル類
- ⑰ 透析
- ⑱ 人工心臓
- ⑲ 大動脈バルーンパンピング法 (IABP)
- ⑳ 体外式膜型人工肺 (ECMO)

→
装着機器を選択

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

● 機器番号 ()

- 正常に作動 (機能) しているか
- 指示通りの設定になっているか
- 指示通りのアラーム設定となっているか
- 機器の接続・固定の確認ができる
- 離床前に必要な機器の操作ができる
- 離床前にライン類を整理することができる
- その他離床ができる環境を整えることができる

VI-2. 離床の実施【患者状態のチェック】

■ 離床実施項目（実施項目全てに☑を入れる）

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ヘッドアップ座位 | <input type="checkbox"/> 腹臥位 |
| <input type="checkbox"/> 前傾側臥位 | <input type="checkbox"/> 端座位 |
| <input type="checkbox"/> 車椅子座位 | <input type="checkbox"/> 立位 |
| <input type="checkbox"/> 歩行 | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |



- 介入の選択が適切であったか
- 安全に実施することができたか
- 中止基準に該当していないか
- 周辺機器に配慮して実施できたか
- 介入後の再アセスメントを実施したか
- 介入後のポジショニングは適切か

■ ケア・リハビリ（実施項目全てに☑を入れる）

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 上肢ROMex | <input type="checkbox"/> 下肢ROMex |
| <input type="checkbox"/> 頸部ROMex | <input type="checkbox"/> 体幹ROMex |
| <input type="checkbox"/> 病棟リハビリ（ | ） |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |



- 介入の選択が適切であった
- 安全に実施することができた
- 中止基準に該当していないか
- 周辺機器に配慮して実施できた
- 介入後の再アセスメントを実施した
- 介入後のポジショニングは適切か

■ 処置（実施項目全てに☑を入れる）

- | | |
|-----------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 気管吸引 | |
| <input type="checkbox"/> 徒手呼吸介助手技 | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |



- 介入の選択が適切であった
- 安全に実施することができた
- 中止基準に該当していないか
- 周辺機器に配慮して実施できた
- 介入後の再アセスメントを実施した
- 介入後のポジショニングは適切か

VI-3. 離床の実施【目標達成度と有害事象のチェック】

■ 離床計画の達成（離床が計画通り実施できたか）

下記いずれかにチェック

達成できた



IV章の患者評価に戻り、更に離床の段階をすすめられるか検討する

達成できなかった



達成できなかった要因の検討

有害事象が発生した



下記「**患者要因**」「**環境・機器要因**」「**システム要因**」「離床の中止基準」をチェック

患者要因_有害事象

(Patient Factor_Adverce Event : PFAE)

- PFAE-1. 転倒
- PFAE-2. 転落
- PFAE-3. 嘔吐
- PFAE-4. 気分不快・めまい
- PFAE-5. 起立性低血圧
- PFAE-6. 意識レベル低下
- PFAE-7. 心肺停止
- PFAE-8. その他

患者要因_バイタルサインの大きな変動

(Patient Factor_Vital Sign : PFVS)

- PFVS-1. 脈拍が140回/分を超えたとき
(瞬間的に超えた場合は除く)
- PFVS-2. 収縮期血圧に30±10mmHg以上の変動が見られたとき
- PFVS-3. 危険な不整脈が出現したとき
(Lown分類4b以上の心室性期外収縮、
ショートラン、RonT、完全房室ブロック、
モービッツII型ブロック、)
- PFVS-4. SpO2が90%以下となったとき
(瞬間的に低下した場合は除く)
- PFVS-5. 息切れ・倦怠感が修正ボルグスケールで7
以上になったとき
- PFVS-6. 体動で疼痛がVAS7以上に増強したとき

上記に該当した場合は、離床を中止し再評価します。

管理システム要因

(Management and System Factor : MSF)

- SF-1. 人員配置が不適切
- SF-2. 離床基準が未整備
- SF-3. 離床プロトコルが未整備
- SF-4. 急変時のマニュアルが未整備

機器・環境要因

(Equipment and Environment Factor : EEF)

- AEE-1. 気管チューブ・挿管チューブ抜去
- AEE-2. カテーテル抜去
- AEE-3. ドレーン抜去
- AEE-4. 各種機器のアラーム出現
- AEE-5. 離床に適したベッド・車椅子がない

■ 該当番号（数字のみ記載）

PFAE	
EEF	
PFVS	
MSF	